

麦穂だより

第73号

発行 武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎 2020年7月
事務局 川崎市宮前区宮崎 2-2-4 エクセル佐々木 108
村田芳包 TEL090-1427-7260
ホームページURL (<http://musashinouдон.dokkoisho.com/>)

「池田 前会長の思い出」

会長 北條 秀衛

この辺り（麻生区柿生）はうどんをおそばと言って昔から食べていた。どこの家でも「うどん切の機械」を持っていた。夕方になるとうどん粉をこね、丸めたものを機械に入れるとうどんが押し出されてくる。麺板と包丁を使わず（伸ばしと切りがなく）、又、うどんは色が黒かったのでおそばと言っていた。池田前会長からこの話を聞いて、うどんに少しそば粉が入っていたのか、単に黒いからそばと呼んでいたのかは判然としなかった。しかし、その後地方に旅に出、道の駅で地粉を買い求めうどんを打った。その時に疑問の一つは解決した。打ったうどんは本当に黒くそばの色であった。味も何となくそばに似ている様な気がした。そばを打つときに、つなぎにうどん粉を2割ほど入れて二八そばを打つことが多いと聞いているが、逆にそば粉二、うどん粉八もあるそうで、そうなるとほとんどうどんに近い。この二八が二×八＝一六で、一杯一六文の安価な食物であったと言われている。これに対してそば粉だけで打つそばが「生そば」である。池田前会長はこの黒いうどんをおそばと言って子供のころから食べていたがあまり美味しいものではなかったらしい。

米が取れない所ではうどんを代用食としてることが多い。武蔵野手打ちうどん保存・普及会の創始者である故加藤 有次うどん博士の小平もそうであった。池田前会長と加藤博士は共に百姓家に生まれ育ち、学をなし、功成り名遂げた人であ

る。幼少時のうどんの他に年齢的にも近く、川崎市の市民ミュージアム館長という共通点があり、二人とも生きた民俗学の実践者であった。しかし、最も共通していたのは「お酒」である。本当によく飲んだ。私も度々、ご一緒させていただき多くのことを学ばせていただいた。「耳学問」であり「酒学問」であった。加藤先生の作務衣でうどんを打つ姿、池田先生の百姓姿、麦播き・麦刈り時のてきぱきとした姿、そしてなによりも美味しそうに飲む笑顔。私の脳裏から消え去ることは決してないだろう。

池田先生に最後にお会いしたのは昨年暮れ、年越しの黒川産地粉の手打ちうどんをお届けした時であり、その後入院したことを聞いたが、コロナで見舞いはかなわなかった。4月5日黄泉の国へ立たれたが、三密から葬儀もごく少数の家族葬で見送りもかなわなかった。池田先生がいなくなった実感はまだ無い。また、ひょいと「おい、一杯やろう」と誘いに来そうである。それとも、あの世とやらで加藤先生を見つけ、もうやっているだろうか。

豪快に 酒飲みし人 春に逝く (合掌)



池田先生との思い出

副会長 館 健三

先生が逝去されて数日後に知らせを受けました。愕然とすると同時に、先生との思い出が走馬灯のように蘇りました。公私ともどもお世話になりました。ある時は仕事上の議論、旅行では台湾、韓国、ベトナム、カンボジアと同行させていただきました。

うどんの会では本部との折衝をふまえた川崎支部長、独立してからの会長と北條会長に代わるまでの十数年にわたり活躍して頂きました。その間、微力ながらお手伝いさせていただきました。

先生は常に控え気味に的確なアドバイスをされて静かに見守る。

この姿勢こそ先生のお人柄そのものと、敬服しております。講習会や、食べ歩きの後の飲み会の語らいも、今となっては楽しい思い出のひとつになってしまいました。

先生のご冥福をお祈り申し上げます。



カンボジアでの池田先生

池田輝夫 初代会長を偲んで

副会長 山田 敏徳

突然のご訃報に接し、驚きと共に悲しみがこみあげてきます。心より哀悼の意を表します。

池田会長は、うどん会の発足（2001年11月4日）当時に、「会員が100人を突破したのは喜ばしいことでもある。反面、これを維持・発展させる責任も重大なことになってしまった。しかし、あまり力まずに自然体でいけばと思う。皆で協力して会を盛り上げる。全員がうどんの技術を磨き、うどんを愛し、そして次の世代に伝えていく。その精進を共に続けられればと願う」としています。この言葉を大切に受け継ぎ、うどん会の発展継続に気持ちを新たにしました。会員の皆さんと協力して楽しく、実り多い会でありたいと思います。ご理解とご協力をお願いします。

最近、池田先生に対する思いがひとしおであるためか、夢に現われてきます。笑顔で穏やかに「ヤマサン ヤマサン」と優しく呼びかけてきて談笑している姿を夢見ます。うどんを打っている姿や話している姿が昨日のように目に浮かんできます。お互い酒が好きでよくご一緒しました。うどん会のことをはじめ、社会の出来事等を楽しく歓談したことを思い出します。

また、小平市のうどん会にも同伴しました。総会や麦まき日待ち秋の祭への出席参加は、有意義な情報交換の場となりました。

「念ずれば花開く」 合掌



池田先生との共同作業

活動報告(前号以降)

2月9日(日) 包丁購入 会場：浅草かつば橋道具街 参加 3名

11:00~12:00 うどん用包丁の在庫少なくやっと5丁を調達した。

2月15日(土) 道具の購入・整備 会場：横浜市都築及びゆうゆう広場麻生

9:00~13:30 参加2名

3月8日(日) 第4回講習会 新型コロナウイルス感染防止のために中止

3月22日(日) 手打ちうどん食べ歩き散策 参加 11名

10:30 西武池袋線大泉学園駅集合⇒手打ちうどんの店「長谷川」⇒白子川⇒大泉井頭公園
⇒井頭泉緑地⇒井頭憩いの森⇒牧野記念庭園⇒大泉学園駅

当初は3月27日を予定していたが、桜の開花が早いのと緊急事態宣言発令の前に実行することにして、参加希望者に急ぎよ連絡をして実行した。

第6回役員会 15:00~16:00 参加 7名

今後の日程及び活動について協議した

5月17日(日) 令和2年度(第20回)定期総会 新型コロナウイルス感染拡大防止のため
会場の高津高等学校の貸出しも禁止で延期。

5月30日(土) 麦刈り 会場：栗木634農園 参加 6名

8:00~12:00 農林61号を80キロ収穫した。

6月4日(木) 会計監査 10:00~12:00 会場：かわさき市民活動センター 参加 3名

6月6日(土) 麦の脱穀 8:30~12:00 会場：栗木634農園 参加 6名

6月8日(月) さつま芋と落花生の植え付け 8:00~12:00 会場：栗木634農園 参加6名

6月28日(日) 第1回講習会の予定が新型コロナウイルス感染防止のため中止

10:00~11:30 第1回役員会 会場：ゆうゆう広場麻生 参加 8名

- ① これまでの経過について
- ② 今後(当面の)活動について
令和2年度定期総会の方法について

高津高等学校が現状では11月末まで借りられないことと、コロナウイルス感染状況の見通しが立ち難いことから総会は、役員会の検討議案を7月中旬に郵送し、会員の同意を得ることとする。



「令和2年の脱穀」



「肉汁うどん(長谷川)」

うどん食べ歩き散策

江原光子（幹事）

今回の食べ歩きについては、コロナウイルスの感染が話題になっている中の決行でしたが、当日（3月22日）は大泉学園駅に11名が集まりました。駅近くのうどん屋「長谷川」に直行したところ開店前なのに数名いました。手打ちはもちろんのこと、粉は農林61号に香川県の白バラをブレンドした風味豊かでのどごしが良

く、肉汁もうどんの味を生かしたものでした。店を出て武蔵野の自然が残る白子川沿いにあった二株のマルバヤナギが印象に残り、うららかな陽気に誘われた花見客の多さに驚きました。その後、大王松が目を惹く雑木林の「牧野記念庭園」に入りました。牧野富太郎博士の偉業を偲び帰途につきました。



牧野記念庭園にて

今後の予定

- 7月下旬 令和2年度（第20回）定期総会
新型コロナウイルス感染防止のため、総会を開くことが出来ないため、役員会で検討した議案書を郵送して、会員の同意を求める。
- 9月12日（土）道具点検・整備 9:00～ 会場：ゆうゆう広場麻生
第2回役員会 作業終了後、今後の活動計画及び日程について協議する。
- 10月4日（日）令和2年度第1回講習会 会場：川崎市青少年の家
10:30～12:30 13:30～15:30 の2回 第3回役員会 13:00～
- 10月31日（土）さつま芋、落花生掘り交流会 会場：栗木634農園
- 11月7日（土）麦蒔き 9:00～ 会場：栗木634農園
- 12月6日（日）第2回講習会 会場：高津高等学校料理室（予定）
10:30～12:30 13:30～15:30 の2回 13:00～第4回役員会
- 令和3年3月7日（日）第3回講習会 会場：高津高等学校料理室（予定）第5回役員会
20周年記念事業及びうどん食べ歩き散策については、決まり次第お知らせします。

うどんうどんうどんうどんうどん あとがき うどんうどんうどんうどんうどん

コロナ禍最中の4月5日（日）、ご家族に看取られて池田輝夫名誉会長が他界されました。当会発足以来、川崎支部長として10年余、小平市本部から独立後も会長として、また名誉会長として会を牽引してくださいました。義理堅く、責任感の強いお人柄で、主催事業や本部との交流会には必ず参加されました。一昨年の定期総会・懇親会・打上げでご一緒し

たのが最期の思い出になりました。勧め上手の先生とうどんの会でたびたび飲食し、談笑したことは忘れられません。3月8日の講習会が中止になって以来、多くの活動が休止状態ですが、その中であって活動報告の内容が充実していることは、特筆すべきことです。一日も早く以前の日常生活に戻ることを願うのみです。（光）